

健康 わんだーらんど Wonder Land



健康増進センター広報誌『健康ワンダーランド』です。今回は“子宮がん”について取りあげてみました。

今若い女性に急増している子宮頸がんの予防法 — ワクチン接種について —

佐世保中央病院 特別顧問 石丸 忠之

今、日本では年間約15,000人が新たに子宮頸がんにかかり、年間3,500人が子宮頸がんで亡くなっています(1日約10人が死亡している)。中でも若い女性(20歳代後半から30歳代後半)の罹患率が急増しており、産婦人科領域では大きな問題となっています(図1)。昔は子宮がんの好発年齢は50歳代でありましたが、どうしてこのように若い人に多く発生するようになったのでしょうか? その理由は初交年齢が若年化したからです。性教育関連の報告では、高校を卒業するまでに40%以上の女子学生が性交を経験しています。子宮頸がんの原因は性交によるヒトパピローマウイルス(HPV)の子宮頸部への感染です。このウイルスは若い女性(特に思春期女性)に好んで生息し(図2)、感染から10数年の長い年月を経て子宮がんが発生しますので、思春期の時期のHPV感染が20~30歳代の子宮頸がんの発生頻度を上昇させていると思われます。図2をみて60歳代の女性にHPV感染頻度が増加している事に疑問をもたれる読者も多いと思いますが、これはかなり前に感染していたウイルスが潜伏感染の状態生き残り、60歳過ぎになって免疫力が低下したため、ウイルスが増えたためと考えられます。このことから、高齢になっても(性交がない期間が長く続いた状態)、子宮頸がんが発生することがわかりいただけると思います。

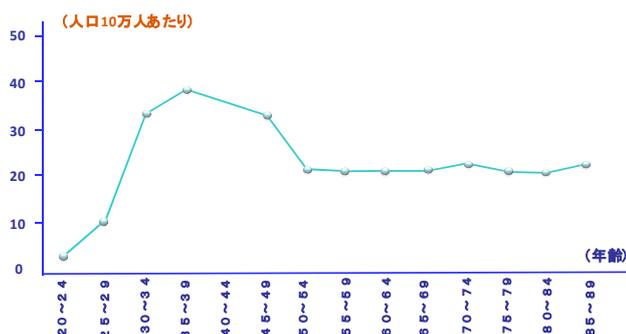


図1. 日本における子宮頸癌の年齢別罹患率の推移

(国立がんセンターがん対策情報センター、厚労省、1998)

HPVは男女の陰部、爪、女性の膣、子宮頸部、男性の陰茎、精液、前立腺などに常在するウイルスです。女性の手にウイルスが付着しその指を膣内に挿入した程度では子宮頸部への感染は起こりません。男性の陰茎に付着したウイルス、あるいは精液中のウイルスが、性交によって、子宮頸部へ移動することにより、感染が成立します。しかし、多くの感染ウイルスは免疫力によって、1~2年以内に排除死滅し、2年以上生き残る(持続感染)ものはわずか10%ぐらいです。この10%のウイルスが生活習慣因子、環境因子などの発癌リスクにより、刺激を受けて癌が発生します(表1)。

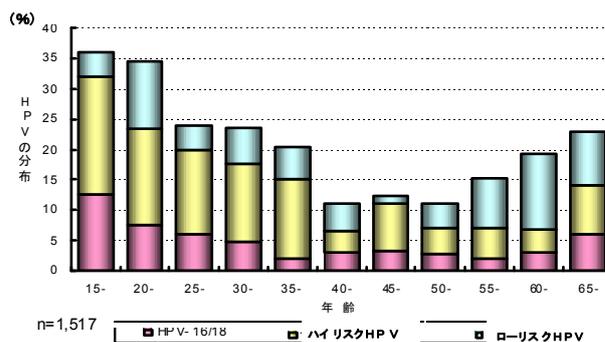


図2. 日本人の健康女性におけるHPVの検出状況

- 1) 若い年齢でセックスを始める人
- 2) 性交パートナーが多い人
- 3) パートナーに性交相手が多い人
- 4) タバコを吸う人
- 5) 経口避妊薬(ピル)を長期間服用する人
- 6) 多産の人
- 7) 性器が不潔のまま性交する人

表1. HPV感染リスクならびに発癌リスク要因

子宮頸がんを起こすウイルスは13種類あり、日本で多いのは16型と18型のウイルスで、特に20～30歳代の若い婦人の子宮がんの80%以上は、この二つの型のウイルス感染により子宮頸がんが発生しています。後で述べます予防ワクチンは、16型と18型の二つのウイルス感染を防止するものです。ところで、子宮頸がんを引き起こす13種類のウイルスのうちの一種類以上に感染した既往を持つ男性は40%以上に上るとの報告が見られ、健常男性の前立腺にある短期間、生息しているものと考えられます。ですから、コンドーム装着による性交は感染を防ぐ有力な手段となりますが、感染を100%予防する事はできません。また、子供がほしい男女にとっては常にコンドームを装着するわけにはいきません。

そこで予防法として推奨されるのが、ワクチン接種とがん検診(定期的検診により前癌状態で発見し治療することでがん発生を予防する)です。今年(平成22年春)から、子宮頸がん予防ワクチン接種が実施されています(表2参照)。このワクチンはポリオワクチンなどとは異なり、ウイルスの外殻(たんぱく質)にたいするワクチンですので、ウイルスそのものによる副作用はなく、極めて安全なワクチンです。しかし、先述のごとく16型と18型に効果を発揮するワクチンですので、がんを引き起こすHPVが13種類もある事を考えると、例え日本ではこの二つのウイルス感染によるがんが多いとはいえ、完全防御とはなりませんので、ワクチン接種後もがん検診を受けることは必要です。なお、最近の研究によると、このワクチンは31, 33, 45および52型のウイルスにもある程度効果がある(交叉防御能)ことが判明しています。ワクチン接種の対象は11～14歳の女子が第一対象となります。この年齢では性交の経験がないと思われるので、HPV感染予防には最適の時期です。しかし、15歳以上から45歳までの女性は第二対象者としてワクチン接種が行われています(この年齢層でも性交経験がない人、あるいはまだHPVに感染していない人がいるので)。接種回数は3回(0ヶ月、1ヶ月、6ヶ月)で、費用は3回分で約45,000円です(来年度、ワクチン接種事業が国の予算に組まれるようすし、長崎県の各地方自治体も援助するだろうと予想されますので、かなり安い費用で接種可能と思われます)。このワクチンの効果の持続期間はすくなくとも20年、今までの血中抗体価の推移を見た研究から推測しますと、30年間は有効な抗体価が維持されるだろうと思われます。したがって、生涯に1度だけの接種で大丈夫ではないかと思えます。今、外国では9価のワクチン(9つの型のウイルスに有効なワクチン)も開発されて治験が進んでいるようですので、数年後には日本でもこのワクチンの接種が可能となるでしょう。このスピードで子宮がん予防ワクチンの開発が進むと、やがて全世界から子宮頸がんがなくなるであろうことも決して夢物語ではないように思われます。最後に、子宮がん検診について触れます。このがん検診はがんを見つけることが主目的でなく、前癌状態でを見つけることが目的です。この前がん状態で見つかり、子宮温存手術(赤ちゃんが宿る子宮体部を残す手術)で100%治癒しますので、手術後も妊娠分娩が可能です。今、晩婚化が進み、30歳を過ぎて結婚する人も少なくありませんが、その年代では子宮頸がん罹患する人が多く、子宮を全部摘出しなければならない人が増えています。だから20歳代にがん検診を受けてほしいのですが、私どもの健康増進センターのデータ(図3)では、日本全体および長崎県のデータと同じ傾向であり、20歳代の受診率はわずか6～7%です。この年齢層の受診率をいかにして上げるかが、今後の大きな課題となっています。

1. 対象 ; 第一の対象 ; 11～14歳の女子
第二の対象 ; 15～45歳の女子
2. 接種回数 ; 3回 (0ヶ月, 1ヶ月, 6ヶ月)
3. ワクチンに使用されるHPVは16および18型 ;
(この2つのタイプで日本の子宮がんの60%を占め、
20～30歳代に限ると80%を占める)
4. 効果の持続 ; 少なくとも20年間は持続する
5. 交叉防御能あり (31,33,45,52型にも有効)
6. HPV既往感染者に対する治療効果はない
7. ワクチンの副作用 ; 重篤なものは全くなし
8. 費用は? …… 3回分で約45,000円

表2.HPVワクチン接種について

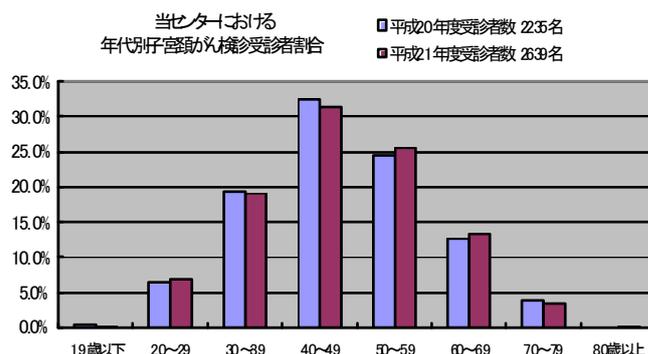


図3.当センター年代別子宮がん(頸部)検診受診率

◆ 健診受診者満足度調査を実施しました

健康増進センターでは、ご利用者に対し、年1回の満足度調査を行っております。日頃より健康増進センターを利用されている受診者の視点で当センターを評価いただき、受診者の声をサービスの向上に繋げることを目的としています。

今回、本年6月に健診を受診いただきました方を対象に、満足度調査を実施いたしましたので、結果をご報告いたします。今回の満足度調査でいただきましたご意見・ご要望を詳細に検討させていただき、受診者の満足が今後益々向上し、一人でも多くの方々に喜んでいただけるよう取り組みたいと思います。

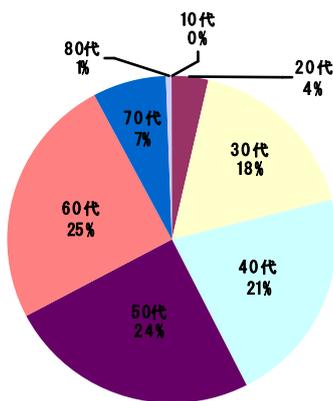
〈健康増進センター 受診者満足検討チーム〉

【実施期間と対象】

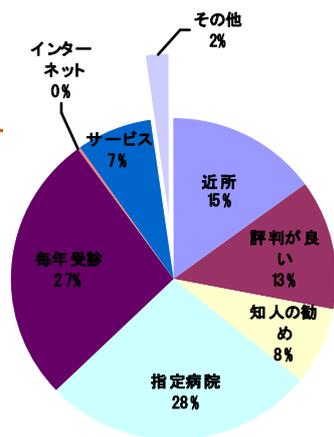
期間：平成22年6月21日(月)～6月25日(金)

対象者：健康診断受診者〔宿泊ドック受診者を除く〕計 165 名

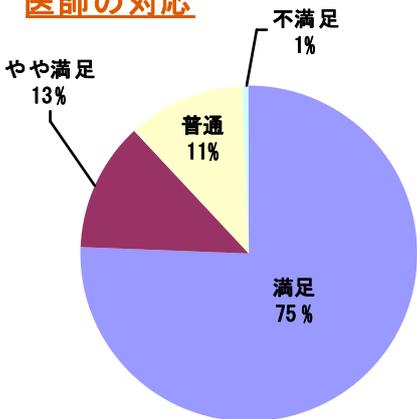
受診者年齢



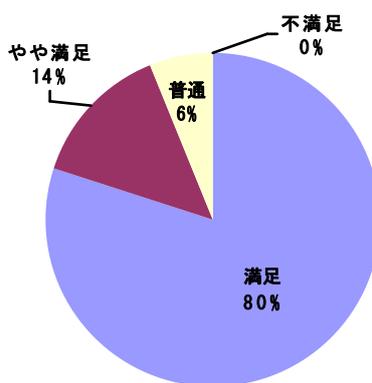
当センターを選んだ理由



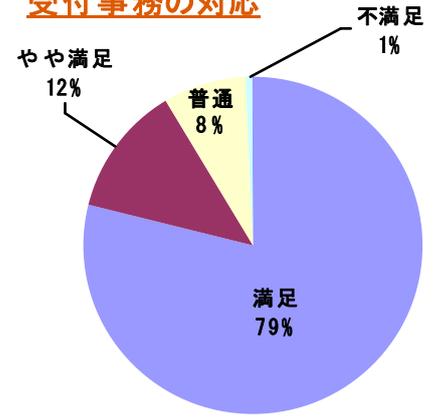
医師の対応



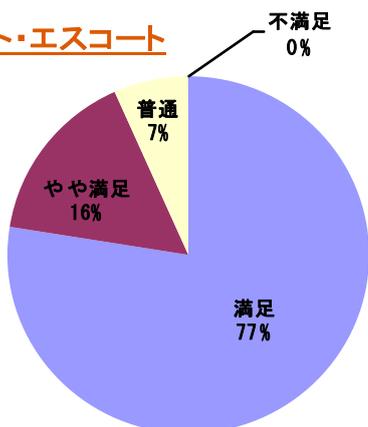
看護師の対応



受付事務の対応



アテンダント・エスコートの対応



【受診者からのご意見】

- ・医師の説明が分かり易い。
- ・昨年に比べ胃カメラが大変楽になりました。
- ・受付から終了まで大変早く助かる。
- ・スタッフの方が丁寧な対応で落ち着く。
- ・スタッフの方が親切で好感が持てる。
- ・緊張して来院してきたけど、対応がよくリラックスできた。
- ・おなか周りを測ってくださった方が丁寧で嬉しかった。

佐世保中央病院 健康増進センター 基本理念と基本方針

【基本理念】

受診者の健康を支援し、活力のある地域社会の実現に貢献します。

【基本方針】

1. 生活習慣病の早期発見と予防の啓発に努め、健康の維持・増進をサポートします。
2. 検査技術や診断機器の精度向上を常に心がけ、質の高い健診を提供します。
3. 特定健診・保健指導を通して、受診者のライフスタイルを考えた継続的な支援を行います。
4. すべてのスタッフが相互に協力・連携して、受診者の皆様に満足いただけるサービスを提供します。
5. 健診業務で得られた個人情報の守秘義務と、受診者ご自身の知る権利を遵守します。

健康増進センター 診察担当医					
	月	火	水	木	金
午前診察	常勤医 : 中尾・尾崎・寺園・森永 非常勤医 :				
午後診察	※ 毎日2～3名の医師が担当いたします				
乳がん検診	担 当 医				
婦人科検診	石丸	石丸	石丸	石丸	石丸

健診に関するご予約・お問い合わせについて

☆健診をご希望の方は、**完全予約制**になっておりますので、健康増進センター窓口にお越しいただくかお電話でのご予約をお願い致します。

○お問い合わせ時間

月～金曜日 9:00～12:00 13:00～16:00

○休診日 土・日曜日、祝日 8月14日～15日(夏季) 12月30日～1月3日(年末年始)

【健康増進センター直通】

電話番号(0956)33-5335 FAX番号(0956)33-5336

メールアドレス sch-kenkoh@hakujujikai.or.jp

*ただし、メールでのお申込は受け付けておりません。

編集後記

残暑厳しい季節がやっと去り、過ごしやすい時期になってまいりました。ただ、この時期は、日中と朝晩の温度差による体調不良や、食欲増進に伴う体重増加など、健康管理が難しいと思われます。慢心せず日頃の健康対策にご留意ください。

前回より、永年発行してまいりました広報誌から、新たにリニューアルさせていただきました。引き続き、ご愛読のほど宜しくお願いいたします。

次回発行日は、来年1月を予定しています。どうぞご期待ください。